

ID ^{注1)}	031124	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告書（平成10～14年度）／白神山地の土壌性カニムシ類							発行年月/報告年月	
								2004年	2月
								資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	環境省自然環境局 東北地区自然保護事務所	委託機関	坂寄 廣(茨城県立下妻第二高等学校)
------	----------------------	------	--------------------

調査開始年	1999年	10月	調査期間	1999年	10月	～	2001年	9月
-------	-------	-----	------	-------	-----	---	-------	----

調査頻度 ^{注2)}	—	—	—	調査時期 ^{注2)}	秋	—	—
---------------------	---	---	---	---------------------	---	---	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1)
----------	------------	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

①一般土壌動物定性調査用試料
1999年10月2日、櫛石山南斜面モニタリングサイト(標高520m)大雨、気温13.0℃、地温13.4℃。コドラートE2、E6およびE10の枠内から約15リットルの土壌試料(林床落枝・落葉を含め5cmの深さまで)を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の土壌試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。

10月3日、櫛石山尾根部モニタリングサイト(標高620m)、大雨、気温9.8℃、地温13.4℃。コドラートE2、E6、そしてE10の枠内から約15リットルの土壌試料を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。

これらの試料を採取日のうちに宅配便で獨協医科大学、昭和大学、千葉県立中央博物館に送り、定性調査用大型ツルグレン装置で土壌動物を抽出した。

②一般土壌動物定性調査用試料-2
1999年に採取した試料は大雨の下で得たものなので試料の状態が良くないため、2001年に同所で補足試料を採取した。

2001年9月1日、櫛石山尾根部モニタリングサイト、コドラート内のBC56(ON-BC56)とJ56(ON-IJ56)、およびコドラート南東側枠外(ON-OUT)の3カ所、林床表層土壌をリターとともに約10リットルを4袋採取した。

2001年9月1日、櫛石山南斜面モニタリングサイト、コドラート内のBC56(KU-BC56)とIJ56(KU-IJ56)およびコドラートの北側枠外(KU-OUT)の3カ所定性試料を採取した。これらの試料は同日の内に宅配便で獨協医科大学および昭和大学に送り、それぞれ的大型ツルグレン装置で土壌動物を抽出した。

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

1999年10月2-3日と2001年9月1日に櫛石山南斜面と櫛石山尾根部より採取した土壌試料から得られたカニムシ類は種構成が両採取地でほぼ同様であった。確認された種は以下の通りであった。

CHTHONIIDAE ツチカニムシ科
Mundochthonius sp.
Allochthonius borealis キタツチカニムシ
Allochthonius sp.

NEOBISIIDAE コケカニムシ科
Microbisium pygmaeum チビコケカニムシ
Bisetocreagris Japnica ミツマタカガニムシ
Bisetocreagris sp.

今回の調査でMicrobisium pygmaeum チビコケカニムシが得られたことは注目に値する。この種はこれまでの調査では、極相林のような安定した環境を維持してきた森林土壌中よりはむしろ、遷移の途中や、樹木の伐採などによって環境が攪乱された後の不安定な環境条件の所に見いだされる傾向を持つ種である。

従って、この調査地で継続したモニタリング調査を行う中で、本種の生息が確認されにくくなることが起これば、本調査地が安定化した極相林に向かって遷移していることの傍証となり、また逆に、本種の優占性が一層顕著になれば攪乱傾向が持続していることを示すことになると考えられる。

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 《原本(データ)の帰属について》
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備 考